

## 奨励賞を受賞して

箕輪 敏行

この度は日本気象学会の奨励賞を頂き厚く御礼申し上げます。

一介の気象マニアのささやかな歩みを認めていただき身に余る光栄と深謝いたします。

1945年戦争終結の翌々年(1947)私は全校わずか150名余の分校から独立したばかりの川崎市立西生田小学校の6年生を受持っていました。敗戦に打ちひしがれた世相と独立したため校舎も満足にはない現場、これからの児童たちをどのように育てるか悩みに悩みました。

やはりこれからは科学教育だと思い児童たちと話合った結果が気象観測でした。

観測といっても寒暖計が1本あるだけでつまるところ裏山の太竹を切りそれに吊した竹筒百葉箱というわけです。それでも3日後には頭のいい鈴木君がブリキをはんだ付にした風向計を作ってきました。

校舎の隅にこわれた便所の錠戸がすててありました。早速四枚を組合わせて小百葉箱をつくりました。

ところがその翌々年だったか、どこで気象のことを聞いたのか突然農林省作物統計事務所の人々が3、4人大型百葉箱はじめ各計器、ジョルダン日照計までもってきて寄贈しますからデータを利用して下さいという。乗り手に舟とはこの事か、お互いに利用する事で受入れました。横浜測候所(現・横浜地方気象台)の篤志区内観測所になったのもこのころです。

9時になると用務員さんが古い手持の鐘をからんからんとならすと観測当番が眼をかやかせながら飛出すのです。みんな西生田小学校観測所に誇りをもっていたと言っても過言ではありません。

折からこの頃、東京天文台(現・国立天文台)が校庭をかりて我国最初の流星写真2点観測を行っていました。台長の広瀬秀雄博士が流星は大気現象と関係があるからということでデータを協力し、御礼だといって日記温度計をくださったのも忘れられぬ思出です。

1953年の春は児童たちが統計すると1月近くも低温で4月24日霜、5月3日は降霜と結氷、素人がやたら

に予報してはいけないけれど、晩霜予報のチラシを各所に貼りました。これが見事に当り沢山の農家から礼状をいただきました。それからは露場に稲や野菜の鉢を置いたり、桜の開花予報(当たった児童父母に賞品)もはじめました。

その後気象観測網は全市に拡がり現在でも市内各校協力して「川崎の気象」という冊子を毎年理科研究会が発行しています。

昭和30年代には東京都から17校も連絡会に参加しています。

1978年、西生田小学校気象観測所30周年が盛大に行われました。

横浜地方気象台からは台長代理として調査官細田剛氏が来会されました。

これを契機に観測網を全県下に拡げようという事になり、1979年6月横浜地方気象台で発会式が行われ県下から70余名が参加しました。会結成については教職員の研修の場である県立総合教育センターや、横浜国立大学谷治正孝、会田 勝(故人)両先生も支援して戴き、とくに教育センターでは事務局まで引受けて下さり多大の御協力を戴いています。

さてその後の会の活動ぶりは推薦書や25年の歩みにあるとおりですが、鯉のぼりの風向調査、県下の積雪、雷雨、県下の大雨、竜巻調査、120箇所以上のさくら開花、市民気象講演会、等多種多様な活動をしております。気象天文の教育も一時より変更された感がありますが自然を直接観察しじかに触れられる気象教材ほどすばらしいものはありません。幸い県の教育センターはじめ各員の積極的な意欲が今後の本会の発展を促すでしょう。尚25年の歩みは発会の機会をつくって下さった元横浜地方気象台の細田氏の構想執筆によるもので心から深謝いたします。

気象連絡会25年と共に西生田小観測所のことに触れ、いささか自己宣伝の様相が強いですがお許し下さい。同観測所も2000年11月創立50周年が行われました。おわりに清水連絡会新会長のもと本会の発展を祈って止みません。